

実験用ガスコンロの扱い方

事故を起こさないために

1

使用する前の点検

- 安定した平らなところに置かれているか。
- 周囲に燃えやすいものはないか。
⇒紙、ビニールやアルコールなどの引火しやすい薬品を置かないように注意する。
- ガスボンベ内にはガスがあるか。
⇒ガスボンベを振るなどして中の残量を確認しておく。
- ガスボンベが、正しく取り付けられているか。
⇒ボンベの装着は、ボンベの切り込みとガイドを合わせカチッと音がするまで押し込む。
- 錆の見えるガスボンベは使用しない。

関連単元

- みんなで使う理科室
- 7. ものの温度と体積
- 8. もののあたためり方
- 9. 水のすがた
- 6. もののとけ方(5年)
- 1. ものが燃えるとき(6年)
- 2. 植物のつくりとはたらき(6年)
- 5. 水よう液の性質(6年)

2

点火・消火の仕方と炎の調節

〈点火のしかた〉

- カチッと音がするまで調節つまみを回す。
⇒長期間実験用ガスコンロを使用しなかった時、またボンベが低温になっている時は、一度の点火動作では点火しない場合がある。一旦つまみを「消」まで戻し、点火するまで点火動作を繰り返す。

〈炎の調節〉

- 調節つまみを回して、炎の大きさを調節する。

〈消火のしかた〉

- 調節つまみを「消」まで回す。火が消えたことを必ず確認する。

3

安全に使用するための注意点

- 使用後は、冷ましてから片付ける。
⇒使用後は本体、バーナーヘッドなど熱い部分がある。また、セラミック金網を使用した場合には、本体の外側も高温になるため、必ず冷ましてから片付けるよう注意する。
- 実験の途中でガスボンベを交換する際は、必ず調節つまみを「消」に戻す。
⇒ボンベの交換は教師が行う。(やけど、ガス漏れ)
- ガス漏れに気づいた時は火気を使わず、すぐ窓を開ける。
- 食塩水の煮沸実験等を行った場合、使用後は本体やバーナーヘッドを塩分の付着していない布等で丁寧にふいて片付ける。(錆防止)
- アルコールランプに比べて高温で、一点加熱が可能なため、実験時は熱しすぎに注意する。
- ガスボンベが高温になるような長時間の加熱は行わない。
- ガスボンベはガスを完全に使い切ってから、各自治体の指示にしたがって廃棄する。
- ガスボンベは火気、湿気のない冷暗所に保管する。

実験用ガスコンロのあつかい方

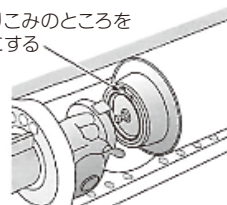
● 安全に使うために

1 使う前の点検

- 平らなところにおく。
- ガスボンベは切りこみを上にし、カチッと音がするまでおしこみ、セットできたことを先生にかくにんしてもらう。
- つくえの上にぬれたぞうきんを用意しておく。
- まわりにもえやすいものをおかない。

ボンベがきちんと入れられているかかくにんする。

切りこみのところを上にする



保管するときは、ガスボンベを外しておく。

2 火のつけ方

- 本体を動かないようにして、カチッと音がするまで調節つまみ^{ちょうせつ}を回す。
(火がつかなかったら、「消」にもどしてやり直す。)
- 調節つまみを回して、ほのおの大きさを調節する。

3 火の消し方

- 調節つまみを「消」まで回す。ちゃんと火が消えたかかくにんする。
- 火を消しても本体には熱い^{あつ}ところがあるのでしばらくさわらない。
- 先生の指示^{しじ}に従ってガスボンベをはずす。

4 ガスコンロの手入れ

- 本体がさめた後は、水道水でよくあらったぬのでていねいにふき、そうじをする。

5 ガスコンロの運びかた

- 運ぶ時は、かならず本体からガスボンベを取りはずして運ぶ。